

表5.5.2

(10㎡当り)

桁形式	編 成 人 員 (人)				諸雑費率 (%)
	橋りょう世話役	特殊作業員	型 枠 工	普通作業員	
プレテンションT桁、ポストテンション桁	2.9	4.0	9.3	9.1(7.5)	9(7)
プレテンション床版桁	1.6	1.7	2.5	3.9(2.4)	10(5)

- (注) 1 コンクリートポンプ車の運転時間はコンクリート10m<sup>3</sup>当り1.5時間とする。  
 2 本歩掛はブーム打設を標準としているが困難な場合、又は現場条件により配管打設が適する場合は、上記歩掛にて配管打設も適用できる。  
 なお、配管式コンクリートポンプ車の規格は90~100m<sup>3</sup>/hとする。  
 3 配管打設の場合の圧送管組立・撤去労務(30m以下)を含むものとし、30m超える場合は「04コンクリート工」による。  
 4 ブーム打設は、打設高さ15m以下、投入水平距離15m以下の場合に適用する。  
 5 1日当り打設量は40m<sup>3</sup>を標準とする。  
 6 諸雑費は、型枠用材料、剥離剤、養生マット及び電力に関する経費等であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 7 養生については、養生覆材の被覆・水散布養生を標準とする。養生面積は、間詰床版の面積とする。保温養生又は給熱養生等の特別な養生を必要とする場合の普通作業員の歩掛及び諸雑費率は、( )書の値とし、養生費用は別途計上する。

## 5-2-4 コンクリート使用量

コンクリート使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m}^3\text{)} = \text{設計書 (m}^3\text{)} \times (1 + K)$$

K：ロス率

ロス率 (K)	+0.05
---------	-------

## 5-3 PC工

## 5-3-1 PC工歩掛

ケーブルの切断、シースの組立、ケーブルの挿入、整正、グラウト注入歩掛は、次表を標準とする。

表5.5.3

(ケーブル 100m当り)

桁形式	種類	規格 PCケーブル	編 成 人 員 (人)			諸雑費 率(%)
			橋りょう 世話役	橋りょう 特殊工	普 通 作業員	
プレテンション桁	シングルストランド システム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.65 <del>0.7</del>	2.0 <del>2.2</del>	1.2 <del>1.3</del>	39 <del>45</del>
		450kN(50t)型(1S19.3)				
		570kN(60t)型(1S21.8)				
ポストテンション桁	シングルストランド システム	390kN(40t)型(1S17.8)	0.67 <del>0.7</del>	3.1 <del>3.3</del>	1.8 <del>1.9</del>	23 <del>26</del>
		450kN(50t)型(1S19.3)				
		570kN(60t)型(1S21.8)				
		950kN(100t)型(1S28.6)	0.87 <del>0.9</del>	3.5 <del>3.7</del>	1.5 <del>1.6</del>	29 <del>31</del>

- (注) 1 ケーブル延長は、定着装置内面間の実延長とする。  
 2 諸雑費は、PC工にかかわる材料費(鋼製シース、グラウト材(超低粘性型)、グラウトホース、ビニルテープ等)、機械器具費(グラウトポンプ、グラウト流量計、水槽、空気圧縮機等)、及び電力に関する経費等であり、労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 5-3-2 PCケーブル使用量

PCケーブルの使用量は、次式による。

$$\text{使用量 (m)} = \text{設計量 (m)} \times (1 + K)$$

K：ロス率

ロス率 (K)	+0.05
---------	-------

(注) 上表のロス率はPCケーブルの切断ロス、つかみ代等の補正でありスクラップ控除はしない。